

# 環境会計

## ◆環境会計とは

環境保全のための取組について、どれだけのコストでどれだけの環境負荷や経費が削減されたかを、数量的(貨幣単位又は物量単位)に把握し評価するための仕組みです。水道局では、2001年度(平成13年度)決算から環境会計を集計・公表しています。

## ◆目的

水道局では、次のことを目的に環境会計を作成します。

- (1) 環境保全のためのコストとそれによる効果を把握することを通じ、より効果的・効率的な事業経営を行うこと。
- (2) 環境保全の取組に関して利用者の皆様から、より一層の理解を得ること。

## ◆対象

次のような期間や範囲を対象として集計しました。

- (1) 期間 2024年度 (2024年4月1日から2025年3月31日)
- (2) 範囲 水道局の事業全体

## ◆集計方法

環境省の「環境会計ガイドライン 2005年版」に準拠して集計しています。

### ①環境保全コスト

環境保全を目的とした投資及び費用額を集計しています。投資額は、環境保全のための設備導入に対する支出額であり、費用額は、人件費、減価償却費、委託料等の当期費用発生額が相当し、環境保全だけを目的とした活動でない場合は、支出目的等を考慮した割合で算出しています。

### ②効果

環境保全の取組による環境負荷削減量(環境保全効果)と経費削減量(経済効果)を算出しています。

## ◆2024年度の環境保全コストと効果

環境会計の分類は「環境会計ガイドライン 2005年版」(環境省)に準拠していますが、分類名の一部は水道事業になじみやすいものに変更しています。

環境保全対策とは、環境負荷の発生の防止、抑制または回避、影響の除去などのための取組です。その対策に関わるコストと経済効果は税抜価格で算出しています。

### ア. 法令や事業運営で、実施しなければならない活動(義務的活動)

分類	環境保全対策	環境保全コスト (千円)		効果
		投資額	費用額	環境保全効果
【事業エリア内コスト】		0	633,459	
【公害防止コスト】	地下水の水質測定	0	137,253	アスファルト 再資源化量 56,045 t
	改良土の六価クロム溶出試験			
	浄水場排水処理施設の運転管理			
	浄水場排出水の自主測定			
	中沼処分場地下水自主測定			
【地球環境保全コスト】	該当事業なし	—	—	
【資源循環コスト】	廃棄物の処理・処分	0	496,207	コンクリート 再資源化量 2,596 t  建設発生木材 再資源化量 3,576 t
	アスファルト・コンクリートの再資源化			
	建設発生木材の再資源化			
	浄水汚泥の減量化・処分			
	中沼処分場の維持管理			
【管理活動コスト】	法的要求事項監視測定	0	1,304	
【社会活動コスト】	該当事業なし	—	—	
【水源保全コスト】	水源パトロール	0	123,254	
	水質情報管理システムによる水源監視			
	水源流域の水質測定			
合 計(義務的活動)		0	758,017	

イ. 環境保全のために水道局が実施している活動(義務的活動以外の活動)

分類	環境保全対策	環境保全コスト (千円)		効果	
		投資額	費用額	環境保全効果	経済効果 (千円)
【事業エリア内コスト】		147	2,538,457		3,414,102
【公害防止コスト】	洗管時の塩素中和	0	257		—
【地球環境保全コスト】	次世代自動車の導入	0	77,206		215,164
	水力・太陽光発電の設置・運転管理				
【資源循環コスト】	水道メーターの再利用	147	2,460,994	CO <sub>2</sub> 排出削減量 1,088 t-CO <sub>2</sub>	3,198,938
	建設発生土の再資源化・再利用			塩素排出削減量 7.1 kg	
	再生アスファルト・再生砕石の利用			建設発生土再資源化量 227,394 m <sup>3</sup>	
	消火栓の再利用			再利用量 94,257 m <sup>3</sup>	
	漏水防止活動 有価資産(使用済み資材)の売却				
【管理活動コスト】	水源水質データの公表	0	2,933	アスファルト再利用量 41,145 t	—
	環境マネジメント研修				
	環境会計・環境報告書の作成				
【社会活動コスト】	琴似発寒川の清掃事業参加	0	1,088	再生砕石再利用量 1,504 m <sup>3</sup>	—
	水道記念館見学者対応				
	サクシュコトニ川のせせらぎ回復				
【水源保全コスト】	該当事業なし	—	—	消火栓再利用数 8基  水道メーター再利用数 50,500個	—
合計(義務的活動以外の活動)		147	2,542,478		3,414,102

## ①環境保全コスト

次の表は2024年度の環境保全コストをまとめたものです。「義務的活動」による環境保全コストは投資額が0円、費用額が約7億6千万円、「義務的活動以外の活動」による環境保全コストは投資額が約15万円、費用額が約25億4千万円となり、合計で投資額が約15万円、費用額が約33億円でした。

2023年度 環境保全コストと経済効果	環境保全コスト (千円)		経済効果 (千円)
	投資額	費用額	
義務的活動	0	758,017	—
義務的活動以外の活動	147	2,542,478	3,414,102
合計	147	3,300,496	3,414,102

## ②効果

### ・環境保全効果

P17-18ページに記載しているように様々な環境保全の効果があります。代表的な環境保全効果としては、次のようなものがあります。

✓ CO <sub>2</sub> 排出削減量	1,088 t-CO <sub>2</sub>
✓ 建設発生土の再資源化量	227,394 m <sup>3</sup>
✓ アスファルトの再資源化量	56,045 t
✓ コンクリートの再資源化量	2,596 t

### ・経済効果

経済効果は約34億円でした。経済効果は、「義務的活動」は法令で定められている活動や事業の運営において経済効果に関わらず行う必要があるため、「義務的活動以外の活動」についてのみ算出しています。

また、「義務的活動以外の活動」の費用対効果(経済効果－環境保全コストの費用額)は約8億7千万円でした。